


特定非営利活動法人 日本免疫学会  
2023年度 後期 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award  
研究発表報告書

申請者氏名	春日 優介	会員番号	0037253	
申請者の所属・職名	北海道大学 大学院 医学院 博士3年			
出席会議名	18th International Congress of Immunology			
発表論文タイトル	FBXO11 constitutes a major negative regulator of MHC class II through ubiquitin-dependent proteasomal degradation of CIITA Dendritic Cell Regulation of Immune Response			

実施結果:

この度は 2023 年 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award に選出頂きまして、誠にありがとうございました。岸本忠三先生をはじめ、選考委員会の先生方、私を推薦して頂きました村上正晃先生に心より御礼申し上げます。また今回の発表にあたり、日頃より研究活動においてご指導いただいている小林先生を始めとする研究室内外の全ての方に今一度感謝申し上げます。

私は本 travel award による支援のもと、南アフリカ共和国の Cape Town で開かれました 18th International Congress of Immunology (IUIS 2023)に参加し、研究内容について口頭発表してきました。本会議は3年に1度開催される国際免疫学会で、免疫学に関わるあらゆる分野の発表が1週間に渡って行われていました。今回得たものとして、自身の発表経験と研究内容に対する考え方の2点があります。

まず自身の発表に関してですが、私は博士3年ですが今回の IUIS2023 が国内外合わせて初めての口頭発表でした。私が大学院に入学してからはコロナウイルス流行の影響で現地開催の学会がほとんどなかったです。初めてということもありますが、当然私の緊張は大変なものでした。スライド登録から Chair person への挨拶など、初めてのことだらけでしたがなんとか乗り切ることができました。他の方の発表も聞いて学んだことですが、発表が上手な人には自然な流れと適度な情報量の2つの条件があると感じました。情報量が多すぎるのはもちろん良くないですが、少なすぎても安っぽく聞こえたり、情報不足感が出てしまったりしているように聞こえました。また聴衆に対して自然と話を入れるストーリー作りは論文だけではなく発表においても非常に大切なのだと実感しました。

次に研究内容に関してですが、全体的に感じたことが、少し雑だが大きい実験系に取り組んでいる人が多いことです。詳細にこのパスウェイのこの酵素の。。。というよりは、免疫細胞に〇〇をふりかけてみました、マウスにこの刺激を与えて免疫細胞を解析しました、といったように大雑把ではあるが、表現系が出た時にはわかりやすい系を用いている方が多くいたことに驚きました。実際にこういったスタートポイントの方が面白い表現系が得られており、詳細に狙うのもいいが、たまには大雑把な実験をするのも大切だと感じました。

末尾になりますが、これまで研究活動を支えてくれた家族に感謝申し上げたいと思います。